

青森商業高校

これまでの歩みと新たな挑戦



沿革

- 明治35年10月 笹森儀助翁が私立青森商業補習夜学校として開校
- 昭和29年 4月 名称を青森県立青森商業高等学校に改称
- 昭和46年 6月 合浦(浪打校舎)から現在地へ移転
- 平成22年 4月 商業科5学級 情報処理科1学級
くくり募集開始
- 生徒定員720名(商業科640名、情報処理科80名)
- 平成24年 9月 創立110周年記念式典挙行

創立功勞者笹森儀助氏



青森商業高校の名称の変遷

- 私立青森商業補習夜学校 17名
- 市立商業補習学校 22名
- 市立商業学校 719名
- 県立商業学校 2,105名
- 県立第二工業学校 342名
- 県立商業学校 382名
- 同上併設中学校 322名
- 県立青森商業高等学校 69名
- 県立実業高等学校 778名
- 県立青森商業高等学校定時制 2,285名
- 県立青森商業高等学校全日制 23,272名

卒業生累計30,301名

本校の教育目標

人間尊重の精神を身につけ、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成とともに商業教育を通して地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。

地域経済に貢献できる人財の育成

特色あるカリキュラム

課題研究

商業科3年次 2単位

情報処理科3年次 3単位

生徒自ら課題を設定し、調査・研究をすすめる研究成果は校内商業研究発表会でプレゼンを実施。

優秀研究発表は県大会、東北大会、全国大会まで

課題研究から商品化へ



「ヒトナツノコイ」

- ・ 開発コンセプト
「見てカシス・食べてカシス・香りもカシス」
- ・ 青森の特産であるカシスと
北海道のクリームチーズを融合
- ・ 青森市の松栄堂菓子店さんの協力で完成

2014 青函ツインシティ提携25周年記念
コラボスイーツして採用決定

函館市でのマーケティング調査



函館大学との連携学習プログラム



青函ツインシティ提携25周年記念 コラボスイーツに決定



新青森駅での販売実習



定番となった青商蒲鉾も



高大連携から高大接続へ

高大連携

高校と大学がある部分で共同して教育を行う。出前授業、大学の授業の聴講等

高大接続

高校入学から大学卒業までの7年間を通した教育プログラムの作成、人財の育成

高大連携会議



高大連携締結校

青森県高等学校教育研究会商業部会と

弘前大学・青森公立大学・青森大学

青森中央学院大学・八戸学院大学・八戸
工業大学

青森商業高校と

函館大学・高崎商科大学・青森大学

高大接続を意識した協定締結

高崎商科大学Haul-Aプロジェクト

職業会計人を目指す接続プログラムラムの提供、夏季集中講義など高校在学中からwebを使っでの教育

青森大学 日商1級プロジェクト

商業高校から進学した生徒用カリキュラムの提供

大学と副教材の共同開発



公開授業風景



県内大学教授と商業科教員の視察



卒業生の進路状況

平成25年度卒業生(231名)

進学	57	77	134
就職進学	0	2	2
就職	31	59	90
その他	1	4	5

(進学内訳)

	男	女	計
大学	35	17	52
短期大学	3	24	27
専門学校	19	36	55
計	57	77	134

(就職内訳)

	男	女	計
県内	23	46	69
県外	8	15	23
計	31	61	92

次の時代に進む青森商業高校

教育目標

知識・学力 + **専門知識を生かす社会人基礎力**

教育の場

教室 + **地域社会・産業界、チーム(クラスや委員会、所属するグループ)**

教育ツール

教科書 + **地域社会・産業界の実課題**

教育方法

Teach + **Coach 支援 対話(面談)
アクティブラーニング**

社会で自立し、社会に参画・貢献していく 人財の育成

人間関係形成力

他者の考えや立場を理解し相手の話を聞く力、コミュニケーション力
言語を活用し批判的に考える力、わかり易く説明する力、

主体的行動力

自ら課題に挑戦していく力

公共心

社会の発展に寄与する意識、態度

他者への思いやり

仲間と共同での研究、調査